

(別添 2)

No.	1
策定年月	令和3年4月
見直し年月	-

## 麦・大豆産地生産性向上計画 紫波地域 (作成主体:紫波町農業再生協議会)

### 1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

紫波町は、全耕地面積に対して主食用米の作付割合が59.56%となる水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米や新規需要米等への取組みや園芸品目の導入等と併せ麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手農家への集積が急速に進む状況を踏まえ、作業を効率化した生産性の高い麦・大豆の産地づくりを推進していく。

また、実需者と密接に連携し需要が拡大基調である品種へ生産を移行していくとともに、耐病性や多収性品種への切替えをおこない、単収向上と実需者への安定供給を実現する。

現在、人・農地プランや水田フル活用ビジョンにより作物ごとの取組方針の作成や作付予定面積等を設定し、課題解決に向け、産地交付金等を活用して取組んでいるが、本計画において、麦・大豆の生産性向上や生産拡大に係る取組みをより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図る。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

本地域で生産している小麦品種「ゆきちから」1,485.6トン、「銀河のちから」159.5トン、「もち姫」202.5トンは、全量がパン・中華麺用として、県内外の製粉企業に販売されているが、実需からの要望数量を生産できておらず増産を図る必要がある。

また、実需からはタンパク質含有率の高い小麦が求められている。

近年、収穫時の天候不順が原因で実需者が求める、品質と数量が確保できておらず、より穂発芽性に強く、赤かび病などの耐病性に高い品種へ切替える必要がある。

大豆については、「ナンブシロメ」、「シュウリュウ」、「ユキホマレ」を中心に関東方面へ豆腐・納豆の原料として販売されているが、近年、作柄の不安定さにより安定供給が達成できておらず、県全体の方針と連携を図りつつ加工適性及び収量の高い品種へ切替える必要がある。

### (2) 生産における現状と課題

近年、小麦作付面積は横ばいで推移しているが、単収は東北平均と比較して単収が低く、湿害が原因となっている。

単収低下の原因として、作付頻度の増加による地力低下や連作障害が考えられ、土壌診断に基づいた土壌改良資材の施肥やブロックローテーションによる作物の切替えを計画的に実施する必要がある。また、排水不良も単収低下の大きな要因となっており、効率的な排水対策を実施する必要がある。

担い手農家への農地集積が進み、1経営体の作業面積が拡大することにより、防除適期や適期収穫の遅れによる品質低下を引き起こしており、作業分散や圃場の団地化を計ることが課題となっている。また、収穫時期が梅雨の時期ということもあり短期間で収穫する必要がある。搬入施設の効率的な稼働計画と老朽化した施設の再整備が必要である。

特に水田での麦作は低収であるため、圃場ごとの最適な栽培法を見出し、実施していくシステムを作る必要がある。

また、大豆においては、作付面積は増加傾向にあるが、単収が安定せず、安定した供給が達成できていないため、機械導入による栽培方法の改善及び乾燥調製施設の更なる整備により、収量を拡大する必要がある。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	ゆきちから	670	622	620	176	274	240	1,176	1,705	1,486
	銀河のちから	100	95	82	192	219	194	192	209	160
	もち姫	34	62	61	133	239	335	46	148	203
作物計		804	779	763	176	265	242	1,414	2,062	1,848

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	ユキホマレ	17	16	26	41	175	96	7	28	25
作物計		17	16	26	41	175	96	7	28	25

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

## ② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	ゆきちから	402	60.0%	373	60.0%	372	60.0%	
	銀河のちから	60	60.0%	57	60.0%	49	59.8%	
	もち姫	21	61.8%	37	59.7%	36	59.0%	
作物計		483	60.0%	467	59.9%	457	59.9%	

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	ユキホマレ	10	58.8%	10	62.5%	16	61.5%	
作物計		10	58.8%	10	62.5%	16	61.5%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

県の計画では4haだが、当町において「団地」は、水田フル活用ビジョンの「団地化加算助成」で要件としている2ha以上で、同一の農業者によって経営(農作業受託は除く)される2筆以上の農地がまとまりを構成しているものに準じることとする。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。